

<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二郎
moriage123@gmail.com
2023. 01. 15 第31号

叙勲をされた佐藤元巳先生に、前もりあげる会会長の佐々木孝先生から
こんな素敵なお言葉が寄せられました

佐藤元巳先生の叙勲を祝う

佐々木 孝

蝉たちの声が
時に鬱陶しく
時に 切なく
時に 哀しく
耳に残って止まない

十歳の元巳兄ちゃんは
母や弟妹の手を握り
父親代わりとなって
母と寄り添い そして働き
異国の人と友好を重ね
弟妹たちを養った

満州からの国境を越え
厳冬に耐え
愛する妹を土中に埋葬し
更に 三十八度線を越えて
幾星霜を生き抜いた

好奇心と知恵と粘り強さで
やがて 帰国となった
その片鱗は 今も衰えない

未来を創る情熱は
教職時代を刻み
愛する仲間との一献に
十八番の木枯し紋次郎の
いぶし銀をうならせ
絵筆を持っては

駿馬が 異国の平原を走るが如く
その造形の深さと探求心は
人を魅了して止まない

全国造形教育研究神奈川大会
横浜・川崎を二分した会場を
篤い朋友荻原勉氏と共に
ひとつにまとめ
過去にない実績を残した

それは既に
長いこと会長を務めあげた
造形教育をもりあげる会の
轍の中に刻まれていた
いや
むしろそれは

満州からのあまりにも大きな
時代の中に生き抜いた道の
続きであり
元巳少年の拓いた
銀色の道でもあった

この度の名誉ある
「瑞宝双光章」叙勲は
幾多のお教えを頂戴した
私には、
それが誇りでもある

これからも続くであろう
銀色の道が
やがて金色に輝いて
私達の道しるべになるであろう

誠に 誠に
おめでとう ございます



現もりあげる会会長 武田晴信 より 佐藤元巳先生へ

佐藤元巳先生、「勲五等瑞宝章受章」おめでとうございます。

佐藤元巳先生は私の2代前の造形教育をもりあげる会の会長をされていました。佐藤元巳先生は川崎市で小学校・幼稚園での造形活動をリードされてきました。私は藤沢市の教師だったので正直佐藤元巳先生との接点はあまりありませんでした。またこの造形教育をもりあげる会の会長をされている時に私が個人的な事情でこの会に活動出来ない時期でした。そして私が事務局長を引き受けた時期に会長を辞任されました。

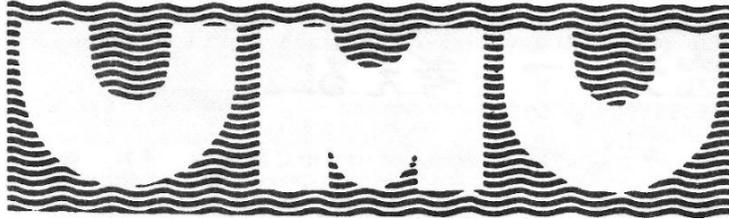
しかし、佐藤元巳先生のお噂は良く耳にしていました。川崎市の小学校や幼稚園での造形教育の発展に寄与されました。そして多くの人材を育て上げられました。また、個人的には馬の絵を中心に絵画を作られていました。65年に渡る造形教育をもりあげる会では多くの方々の努力の積み重ねによって今日の姿があります。佐藤元巳先生はまさにその中であって燦然と光り輝いています。これからもお体を大切にお過ごし下さい。

横浜「向原幼稚園」の造形展

1月10日(火) 前もりあげる会会長の佐々木孝先生と増田ツヤ子が、向原幼稚園の作品展に行ってきました。向原幼稚園は、この度『瑞宝双光章』を受賞されました佐藤元巳先生が園長として勤めておりました。

『みんなが違ってみんないい』の目標が至る所にはってあり、子どもたち一人一人の気持ちを大切にしている様子が伺われました。堂々とした作品は、普段の保育・遊びの中で絵を描き工夫して、お話をするように線や絵を描き、その時の気持ちや経験を表現して形にする。その一つ一つの作品がその子の世界です。色も形も自由に創り上げる子どもたちの世界をご覧ください。作品への想いや感性に至るまでのプロセスを大切にしていただければと思います。との園長先生のご案内でした。コロナ禍での作品展で2クラスごとに見学するという形式をとっていました。 (副会長 増田ツヤ子)





<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 1. 25 第32号

1月のワンコイン研修会の報告

1月21日(土) かぐのみ幼稚園 参加者：26名 <講師：天形健 先生>

「色のお話と混色実験」 (CDコマを使って配色や構成による混色を遊びながら試してみる)

前回の研修からコマ繋がりですが、今回はコマをつくるというよりは、コマを使って混色の不思議やその面白さを感じる活動がメインでした。そして、その活動から色への関心を引き出し、天形先生の大変興味深い色のお話へと続いていきました。

コマを使っての混色実験では、先生が用意してくれた CD コマに丸く切った紙を取り付けて回すのですが、その紙に配色や色の構成を考えながら色を付けていきます。色を付けた紙をコマに簡単に取り付けて回すことができるので、洋服を着替えるかのようにコマのデザインを変えることができます。丸く切った紙に思い思いの色を並べていく活動は、回したらどんなふうに見えるのだろうかと思いつきながらワクワクしながら進んでいきます。何度か回してみると、こうやって色を付けると回したときにこんな感じになると、ある程度予測できるようになり、さらに夢中になって取り組んでいました。

色のお話では、色の基本的な知識から配色や混色の不思議、そして色やその配色によるイメージなど、いつの間にか色の世界に引き込まれていました。たくさんの画像を通して、季節の色合いや生活の中の色づかい、色の使い方を通じた絵画の見方など、色に対する興味関心を沸き立たせてくれるとても素敵な時間でした。

研修の最後には、天形先生がもりあげる会の創設者である小関先生から受け継いできた造形教育への思いを語ってくださり、参加者それぞれの心に刺さる言葉を聞くことができました。どんな言葉なのかは、研修参加者の感想から推測してみてください。

今回の研修の会場である「かぐのみ幼稚園」は、小関先生が園長先生を務めた園であり、もりあげる会の原点でもあります。この日は、いろいろな場面で小関イズムを感じることができ、様々な人と小関先生の話をすることができました。



増田副会長より

天形先生、本日は研修会の講師を引受けて頂きましてありがとうございました。

『コマを使った色のお話』でしたが、前回の研修会で講師の宮川先生から様々なコマの種類と、一人一人の想像力、工夫を凝らしたコマを作ってみることが課題でした。数多くの種類のコマが出来上がり、先生方の会話も飛び交いました。本日は、その経験を踏まえて実際の色の不思議さにふれ、各自思い思いの色を塗り、CDのコマに被せてまわしてみる。模様・色によって混じり合い消えてしまう色や新たに強く見える色等の実験でもあり造形教育の一環に触れました。一番強く心を打たれたことは『造形教育をもりあげる会』を立ち上げられた『小関利雄先生』の想いが何度も出てきて、67年経った今を慣れや惰性ではなく、小関先生の想いからズレることなく前進することを奮い立たせて頂いたような気持ちになりました。ありがとうございました。

森本副会長より

講師の天形先生のお話を伺うのは初めてでしたが、天形先生は、お話の中で、「造形教育をもりあげる会」の創設者であり、元横浜国立大学教授でいらした小関利雄先生の造形教育への熱き思いを、繰り返し話され、また、ご自分でも、小関先生のお考えを真剣に伝えようと言われていたので、私は、そのお姿に深く共感し、心を打たれました。そして、その子の興味、やる気、意欲などを、何よりも大切にして、楽しんで取り組めるようにしていこうとする、造形教育の根本的姿勢は、どの教科にも通じていくものであり、そこを、何よりも大事にしてほしいのだと、研修後も繰り返し語られていたので、天形先生には、ぜひ、今後とも、「造形教育をもりあげる会」においてもご活躍頂きたいと、強く思いました。

実技の場面では、コマに載せる紙に、自由に色を塗りこみ、それを回したときにどのように見えてくるかななどを、グループのみんなと、驚いたり、感動しあったりして、楽しく体験をしたので、色への興味が深まり、色の不思議さや、奥深さなどを改めて感じる事が出来ました。今回の感動や驚きなどは、幼稚園の子ども達にも、ぜひ体験させてあげたいと思っています。天形先生、貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

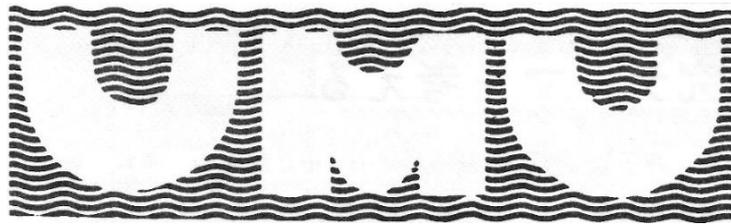
研修参加者の感想

- 本日はご縁たくさんさんの研修会。小関先生の思い出がみんなまで共有できたとてもハートフルな時間でした。色の世界の不思議さと味わいを感じ入りました。色感覚と味覚に通ずるものがある・・・なるほどと思いました。素敵な時間ありがとうございました。
- とても素敵な場所での研修会。そして、学び多い研修会でした。かぐのみ幼稚園のロケーション、ヤギのお出迎え、ニワトリの声、そして子どもの無垢でかわいい魅力あふれた造形に囲まれての時間はとても幸せでした。天形先生のお話は、これまで無自覚であった色への意識を向けさせてくれるものでした。お話を聞きながら、「色に着目して、子どもこんなことしてみようかな?」「スーパーや花屋を見学して色に注目してみようか」など、実践へのアイデアも喚起させられました。そして、造形は人間形成につながるというお話、ものをつくるだけではないというお話、深く納得、共感しました。先生や園からのたくさんプレゼントやお心遣いに深く感謝申し上げます。

今回会場を提供して下さった「かぐのみ幼稚園」の造形展の紹介です

2023年2月11日(土)10時～15時 「かぐのみまつり」

一年間の子どもたちの表現の足あとから生活や遊びを感じ、一人一人の成長をお祝いする「おまつり」です。是非遊びに来てください!! お問い合わせ 046-871-6258 (9時～16時)



<https://www.zoukeimoriage.com/>



ZOUKEI MORIAGE SINCE 1957



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 02. 05 第33号

1月の研修会「色のお話と混色実験」参加者の感想です

- 美術や図工の授業は想像や発想力が重要であると思っていたので、どこかいつも苦手意識がありました。でも、「色」と「造形」で考えたとき、想像力、発想力の他に「知識」が入っても面白いのかなと今日の研修を通して感じました。自分のイメージと実際のギャップが結びつくにより造形が楽しめると思いました。子どもたちにも固定観念をもたずに、自分が考える、イメージする世界を今は楽しめるようなサポートができたらいいなと思います。
- 初めて参加させていただき、お話を聞くだけでなく、混色を考えたコマづくりも合わせて体験することができ、とても楽しい時間でした。大人でもワクワクドキドキする物づくり。保育者として子どもたちが主体的に創造的に遊びながら造形活動ができる環境（場所・素材・道具など）を整えていくことが大切だと感じました。また、そうした経験を幼児期にたくさんすることで大人になった時にも影響があるのだと改めて感じることができました。
- コマの色塗り実験では、色の付け方により回したときにきれいにぼやけたりくっきりした線になったりと実験する気持ちのおもしろさを感じました。先生の話の中で、有名な画も、隣の色との兼ね合いに注目して見ると、この作品はこの色合いを工夫したんだなと思うことができました。これからの美術館巡りの楽しみが増えました。「かぐのみ」に勤めて小関先生を知り、「偉大な方」ということは認識していましたが、「人を知るための造形」というワードに出会えて、小関先生が指導して下さった造形教育の伝統、精神をもっと知りたいと思いました。私の中の小関先生像が膨らんだ会でした。「かぐのみ」や「造形」への尊敬する気持ちがもりあがった！そんな日となりました。素晴らしいお話に心より感謝します。
- 初めて参加させていただきました。自分自身、子どものころから造形的な遊びや体験をあまりしてこなかったと思うので、子どもたちにどのような経験をさせてあげたらいいのか戸惑うことが多々あります。今日の研修でお話があったような「色」についても普段から意識して日常生活や保育も彩っていけたらと思いました。
- 色に対してのいろいろな感覚も幼い頃からの影響があることに驚きました。やはり幼児期に様々な経験をする事、見たり（観たり）聞いたり（聴いたり）触ってみたり・・・が大切なんだと知りました。大人からみたら何気ないことも子どもにとってはとても大切で、そばにいる大人はそれを拾って認めていかなければ・・・と強く感じました。
- 今回の研修で「色って不思議だな」と思ったのが率直な気持ちです。色合いだけでその絵がいつの季節の絵なのか、どんな感情の絵なのかが分かることが今回の研修の中で作品を見て改めて感じました。幼稚園で子どもたちが表現する際の絵の具の色選びはとても重要なことだと思いました。また表現する際は、実際に見て触って感じたときに描くことが大切だと改めて気づかされました。以前にわたりの絵を描いた子どもたちの作品を見て、ニワトリと触れ合って大好きという気持ちで描いた絵は、とても細かいところまで丁寧に描いてありました。今回学んだことを活かし、子どもたちと造形を楽しんでいきたいです。

- 色には「色」だけではなく、イメージ（あたたかい色、やわらかい色など）もあり、色の世界を通して、表現・気持ちなどの感覚も育っていくことを今回の研修で感じることができました。とくに、一般的には一つの色とされているものでも、実は何通りもあるのが興味深かったです。改めて柔軟な見方や色に対する「綺麗」や「素敵」などの素直な気持ちを大切にしていきたいと思いました。
- 色から伝わるイメージ、表現を色にのせる・・・。「色」って身の回りにこんなにもあふれているのに、何気なく使われているのに立ち返ることってなかったです。造形活動の時にはもちろんのこととは思いますが、普段何気なく過ごす中でも、意識し、観察し、表現する習慣をつけ広めていきたいと思いました。
- 興味もあって深堀してみたかった色に関する講義で、本当にあっという間の2時間でした。コマを使った体験で楽しみながら、過去の歴史上の名作を紹介され、その時代の絵の具事情が関係している話など、“色”というテーマだけでこんなにも楽しいのかと改めて驚いたとともに、より一層“色”を保育に生かしたいと思いました。先日、絵の具の使い方について先輩の先生に指導してもらったばかりだったので、この講義から得た貴重な知識や考え方を基盤に、今後も“色”に向き合っていきます。
- 今回の色についてのお話、とても面白かったです。普段自分が見ている世界の色が全てではないということに改めて認識しました。色の実験はみんなの個性が出ておもしろかったです。直感的に塗ってから回してみて「おー！」となる人、回しながら色や模様を増やしていく人、理論的に考えて構築する人・・・造形の楽しみ方も人それぞれ色々あって楽しいなと思いました。今回いただいた円盤、子どもたちと遊びながら実験して、色の世界を楽しみたいと思います。
- 色について知らないことばかりで、先生のお話で多くのことを学ぶことができました。取り換えのできるコマづくり、とても楽しかったです。色を考えて塗ったり、何も考えずに塗ったり、先生よりも子どもの気持ちの方が大きくなったように感じました。園に今日のことを持ち帰り、子どもにコマづくりの楽しさや色の美しさ、楽しさ、不思議さを伝えられたらいいなと思います。お話の中で、一番驚いたことは、味覚と色彩は同じだということです。考えたことも思ったこともなかったのですが、似ているなど感じるものがあり、料理の際、意識して見ようと思いました。
- 実技を通して色や色彩について改めて学ばせてもらいました。造形活動は「人間形成」という言葉、身に沁みます。秋田喜代美先生が、探求は人が人たる根幹を支える活動で、子どもは生まれつき主体的な存在であると言われていました。造形も、自分で「あれ、何だろう。やってみたい」という興味、探求からはじまっていますね。自然の中でたくさん不思議を体験し、あそび、楽しみながら表現活動を行っていききたいと思います。
- 先生のお話にあった「造形は図工や美術のためではなく、人格形成をするための手段だ」という言葉に深く感銘を受けました。子どもたちが普段の生活の中で様々な色を見たり、経験ができるような環境を整えることが大切だなと改めて感じる事ができた研修会でした。
- 造形の研修会に参加する機会が減っていたので、今日を楽しみにしていました。いろいろな時代の絵を見て、色遣いの違いがこんなにあるんだと驚きました。色にも文化がありますね。子どもたちにも、いろいろないい色に触れることを大切にしたいなと思いました。

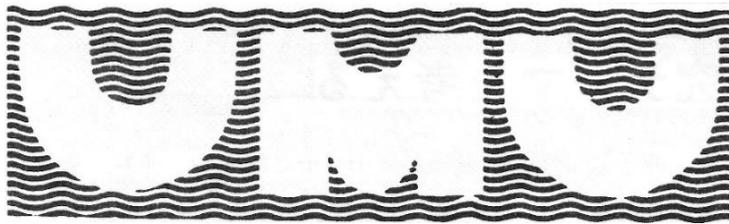
会報のバックナンバーがホームページで見られるようになりました。

「もりあげる会 HP」→メニューの「会報 UMU」を開いて
会報「UMU」1～10号をクリック
PDF ファイルで見ることができます

訂正とお詫び

会報第30号の佐藤元巳先生の受賞への祝福メッセージで、「山口喜雄」先生のお名前が間違えていました。

誤：「山口善雄」→正：「山口喜雄」
山口先生大変失礼いたしました。
訂正してお詫び申し上げます。



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 2. 17 第34号

かぐのみ幼稚園の「かぐのみまつり」を参観して

2月11日(土)に行われた逗子にあるかぐのみ幼稚園の「かぐのみまつり」の紹介です。

様々な環境(人、モノ、自然)に触れ、なんだろう？面白そう、やってみたい！！と、一人一人が夢中になり、今感じている思いを表現する「あそび体験」を大切にしている「かぐのみ幼稚園」

かぐのみまつりは、「みんな違ってみんないい！」一人一人が輝くおまつりです。

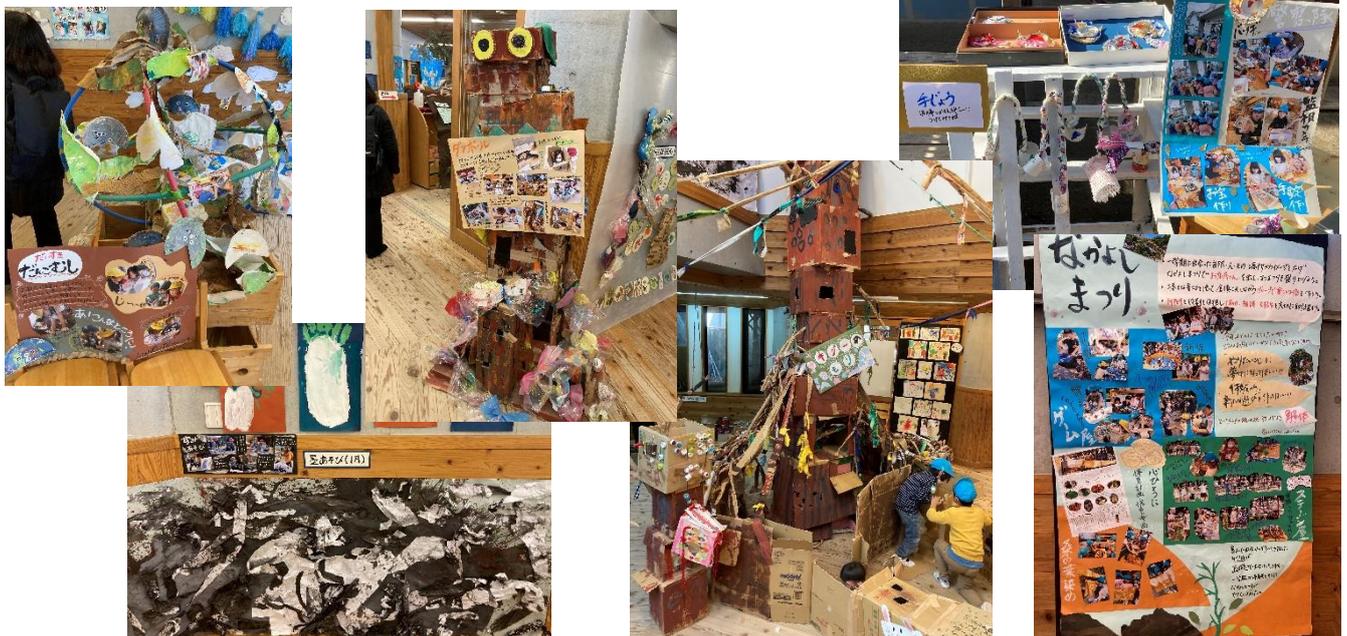
かぐのみまつりは、子どもたちの1年間の遊びと生活の表現展として位置付けています。どの子にも4月からの一人一人の表現の足跡があり、その足跡を皆様といとおしいまなごしで共有してお祝いすることが1つの課題です。
(園のチラシ・パンフレットより)

坂道と階段の上にある幼稚園。階段を上るとそこに広がる園庭は、子どもたちの楽しい遊びの世界。大きなトロールがお出迎え。ひみつきちで遊ぶ子どもたち。どろけい遊びから生まれたどろぼう学校と警察基地。子どもたちの遊び体験から生まれた素敵な表現に溢れていました。

中はどんな楽しい世界が待っているのだろうか？とワクワク感満載で建物の中に入ると・・・。

「ひよこ組」「ことり組」「うさぎ組」と回っていききましたが、どこでも、子どもたちの日常の生活や遊び、そして季節ごとの行事の中から子どもたちの思いがとても楽しそうに表現されていました。どこを見ても、子どもたちの生活や思いから生まれた表現ばかりで、気持ちが安らぎ心地よい気分になれます。

先生方が子どもたちと一緒に活動し、子どもたちと思いを共有する中で、子どもが気づいたこと感じたことを丁寧に拾ってあげているのだろうなと感じました。子どもたちの表現と合わせて、先生たちがつくった子どもたちの生活を紹介するパネルもとても素敵で、写真と共に温かいコメントが添えられ、年間を通しての子どもたちの成長が伝わってきました。



かぐのみ幼稚園さんの「かぐのみまつり」に見学に行ってきました。「かぐのみまつり」は、これまで、何回か見学させて頂いているのですが、今年の内容も、かぐのみ幼稚園さんらしさにあふれていました。保護者に見せる為に、上手に作らせたり、きちんと描かせたりしてきたものを展示しているような作品展とはまったく違って、4月からのこれまでの園生活の中で、子どもたち、一人一人が、何に興味を持ち、何に感動し、何を楽しんで心に残してきたのかを、その子なりに表現しようとしている思いが、展示されている作品の中にあふれ出ていました。そして、「かぐのみまつり」においても目指している、「みんなちがって、みんないい」の世界が、保育室や、ホール一杯に楽しく広がっていました。先生方の展示の仕方も、学年ごとに工夫されていて、子どもたちの日々のさりげない表現活動を、いかに丁寧に温かく受け止め、展示しようとしているかが、見学している私にも伝わってきました。

「作品展とせず、祭りとしているのは、こんなに、一人一人が素敵に成長してきましたよ。ということ、みんなで祝う祭りのようにしたいから、あえて、「かぐのみまつり」としているのよ。」と、これまで、造形活動においても素晴らしい実践をされてきた、元石井園長先生（現在は、かぐのみ保育園の園長先生です。）は、にこやかに語ってくださいました。

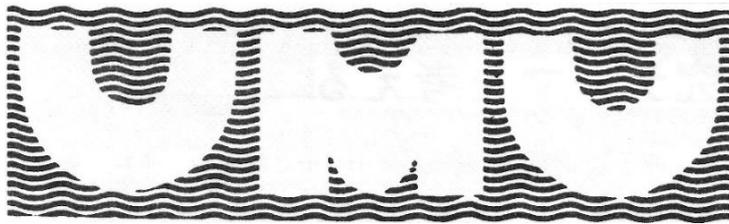
子どもの興味、関心を大切にしながら、形になることを目指すのではなく、楽しんで描いたり、作ったりする過程を何よりも大事にする造形教育の基本を、しっかり実践されているかぐのみ幼稚園さんには、これからも、幼児教育のモデル園として、ぜひ頑張ってほしいと改めて感じさせて頂いた今回の見学でした。ありがとうございました！

<もりあげる会副会長 森本壽子>



前日、大雪の予報で荒れた天候にもかかわらず、「かぐのみまつり」当日は『ようこそ皆さん』とばかりの最高の天気に見舞われ「かぐのみまつり」日和でした。早速、室内の展示を順路に沿って見学させていただきました。まず、入り口には、かぐのみ保育園児の作品が一面に展示され迎えてくれました。3歳児のコーナーでは、さつまいも掘りの経験からツルとお芋の作品が、それぞれ可愛く展示され、3歳児ならではのダンゴ虫とのふれあいも観られました。4歳児の入り口ではとても可愛くかっこよく作られたロボットカミイが迎えてくれ、個性あふれる子供たちの空き箱製作の説明を2年目だとおっしゃる若さ溢れる先生が説明してくれました。拾ってきた木の実や葉、枝などを使ってその子ならではの作品に仕上げている様子が、楽しさ・好奇心・意欲を掻き立てて遊び感覚で取り組んだ様子が見られました。『三匹のヤギのガラガラドン』をトルロが怖い!!で終わらせないで自然環境を最大限利用し、子供たちの興味を膨らませ、意欲を伸ばしてあげられるのがとてもうらやましいことです。5歳児の「泥棒学校・警察基地」での話し合い、調査、木工制作の全てが圧巻でした。『造形教育をもりあげる会』を立ち上げられた小関先生が、かぐのみ幼稚園の園長先生を勤められ、その後もその精神を引き継がれていることが素晴らしいことです。今後も魅力ある子どもたちの「遊び体験」を続けて頂きたい願います。

<もりあげる会副会長 増田ツヤ子>



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 02. 23 第35号

2月月例会と研修会の報告

2月18日(土)向原幼稚園を会場に、運営会議とわくわく研修会を行いました。

運営会議では、早急な案件がなかったので、「もりあげ憲章」をみんなで読み合い、もりあげる会の考え方を再確認しながらのフリートークをした。もりあげる会への思いや造形教育への考えなどを語り合う場も大事だと改めて感じられたひと時でした。

わくわく研修会は、参加者18名で2時間という時間を目いっぱい楽しめた研修でした。

2月「わくわく研修会」の紹介

前もりあげる会会長の佐々木孝先生を講師に迎えての研修でした。

内容は、「見立て&なりきって、えがく・つくるを愉しむ」というテーマで、「わたしのやきそば」「動物村のお弁当」という2本立ての活動でした。

「わたしのやきそば」では、紙でつくったコックさんの帽子をかぶり、コックさんになりきって自分で描いた鉄板の上にクレヨンで自由に焼きそばを表していきます。クレヨンで描く心地よさと楽しさを十分に味わえる活動でした。

「動物村のお弁当」では、段ボールでお弁当箱をつかって、その中にいろいろな材料でお弁当を詰めていきます。たくさんの材料が用意された中から自分で好きなものを選んで、いろいろなものに見立てながら自分好みのお弁当をつかっていきます。だからアートバイキング。自分で選んで自分で表す喜びや活動の楽しさを思いきり感じられる活動でした。

研修の後半は、「Work out/まじめな雑談」ということで、「前半の2つの活動の振り返り」や「保育や教育、そして、自分の向かい合う場に」について自由に気ままに語り合う場を設ける予定でしたが、前半の活動が盛り上がり過ぎてしまったためか。時間が押しすぎてしまい残念ながら十分な時間が取れませんでした。

佐々木先生からは、今回の研修で行った2つの活動からどんな学びの価値(よさ)があったのか、みんなで考えたかった。そして、これらの活動から、子どもの何が育つのか? 生来もっている子どもの何を引き出せるのか? 子どもの「好奇心」は、引き出せるのか? その子の明日に生かされるのか?・・・などなど、皆で語り合いたかった。とのことでした。

そして、話題はどんどん脱線し、私達の今や社会、未来、希望、夢、友だち、生きる、幸せなどフランクに雑談できる機会が「Work out/まじめな雑談」なんですね。



研修参加者の感想から

○研修会に参加でき、楽しいときを過ごさせていただきました。ありがとうございました。佐々木孝先生はいつも楽しい活動を考えてくださるので、わくわくして出かけました。今、個別級で非常勤をしていますが、今回の研修の「焼きそば、コックさんの帽子、森の動物たちのお弁当」の楽しさを担任たちと共有し、子どもたちの活動へつなげたいと思います。

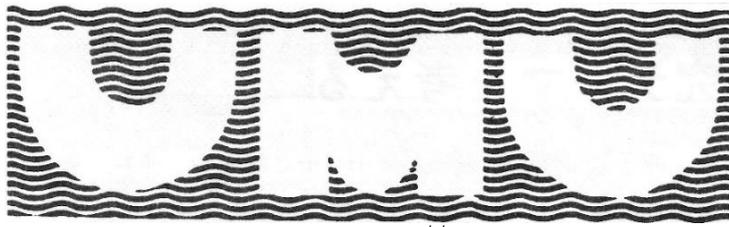
また、佐々木孝先生の木版画集を観ながら帰りましたが、温かい作品に故郷の母を思い涙が出ました。造形作品が思いを語ると感じます。これからも私のできることを頑張ろうと思いました。参加できてとても良かったです。ありがとうございました。

○昨日はわくわく研修会に参加させていただきありがとうございました。純粋に造形を楽しむことができ、本当に楽しい時間でした。子どもが理解できる言葉や感覚のようなものを教えていただいたように思います。ありがとうございました。

○帽子、焼きそば、お弁当…と盛りだくさんでしたが、佐々木先生の一言一言から、先生の情熱が伝わってくる素晴らしい研修でした。私も新人の頃に戻って、夢中で楽しく製作いたしました。私たちが学生だったころ（40年以上前）は、『熱い思い』を全力で伝えてくださる先生がたくさんいらっしゃいました。だから学生も心を動かされ、感動をもって講義や実技に熱中できたのだと思います。これから保育を担っていく、若い世代の先生方にも、ぜひ体験してほしいと思いました。

○今回のテーマは「見立て」や「なりきり」から活動を広げていくものでしたが、改めて少しのきっかけが保育のヒントになっていると感じました。焼きそばの活動ではコックの帽子をつけて行うのが、とても面白くなりきをさらに楽しくさせるアイテムだと思いました。そうした工夫が子どもたちの気持ちをさらに明るくしてくれると感じました。お弁当の活動では、バイキング形式ということで様々な材料が並べられていて、私自身もとてもわくわくしました！普段保育で使ったことがない素材もあったので、もっと研究してさらに幅広い造形活動ができるようになりたいと思いました。年中や年長ではお弁当箱の素材から子どもたちに選んでもらうなど発展させて活動することもできるのではないかと思います。どちらの活動も年少さんでも出来そうな内容だったので、さっそく保育に取り入れていきたいです！短い時間ではありましたが、最後のグループワークもとても学びを深めることが出来ました。普段教育の立場になっている方々のお話を聞いたり聞いていただいたりするのはなかなかない機会なので、ほかの研修でも積極的にコミュニケーションをとって、より良い保育を作り上げていきたいです。





<https://www.zoukeimoriage.com/>

造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 03. 05 第36号

2月の「わくわく研修会」の講師をしてくださった佐々木孝先生から絵本の紹介です。

「ヒラベッター・ザウルス」が 再びやって来た！！！！



絵本「ヒラベッター・ザウルスうまれるよ?!」(文研出版)は、標記「絵本で読みとく SDGs」に、絵本の推薦図書として取り上げられました。

2019 年国連総会で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs) 17の内、目標のNO.4「質の高い教育をみんなに」の項に永田佳之先生(聖心女子大学)が推薦してくださったのです。

そして、永田佳之先生が翻訳された「未来をつくるのはわたしたち」です。ここで語られる未来への姿勢、造形活動に携わる皆さんにぜひ読んでもらいたい本です。各国の33人からなるイラストレーター

池田小学校の事件があったあの頃、校長だった私は、子ども達の登下校時の校門に毎日立っていました。

登校してきた女の子が「校長先生これあげる！」と言って差し出した平べったい石ころを見た私は、

「これは、恐竜の卵だよ！」

「ヒラベッター・ザウルスの卵かもしれないぞ！」

と、とっさに発したこの言葉からお話が始まりました。

毎日門に立ち、校長室でも温めました。

「図鑑やPCで調べても、載っていないからうそだ！」

という子どももいました。しかし、ヒラベッター・ザウルスは、生まれたのです。

しかも、校門近くの床や校舎の壁に、足跡を残して去って行ってしまったのです。

春一番が吹いた春。

私は、近くのビニルハウスのビニルが飛んで来たと思いました。

しかし、子ども達は、

「恐竜が脱皮した～」と叫んで、それを抱えて校長室にやって来たのです。

私はまだSDGsという言葉が知らなかったが頃の本当にあったお話です。

それから数年後絵本になったのです。

あれから今再び、ヒラベッタイ・ザウルスがこの書籍に降り立ったのです。

筆者は、SDGs4に掲げる「質の高い教育」とは、「何よりも重要なのは他者への想像力を豊かに育むことである」と述べています。

You're fantastic! (あなたって とてもすばらしいわ!)

2023.1 ささき・たかし

2月の「わくわく研修会」感想

参加者が多種(幼稚園・保育園、小・中学校、教育委員会、学童保育、造形作家)関係者の研修会となりました。

現役の皆さんと数年前の現役の皆さん、さらには数十年前の現役の皆さんが違和感がなく、一つになっての楽しい研修会は、何を表していたのでしょうか。終始、技術指導の前に「個々の気持ちが一番である」という意味のお話が見え隠れし、想像すること、自分で考えることの重要性のポイントを話して下さいました。ゆったりした気持ちの中に、参加者全員一つになれる手段に、座っているばかりではなく、移動して製作物を飾ったりする大切なふれあいの間づくりも感じました。あっという間に終了した研修会でした。造形教育にとって大切なのは、乳児・幼児の保育・教育と同じであることに気づかされた研修会でもありました。限られた時間があっという間に過ぎて「楽しかった。続きは、また来月やって下さい」の意見も出ていました。それほど魅力のある楽しくもり上がった研修会に拍手です。余り紙や自然物・石ころ等で製作したアートバイキング。作ったお弁当を持ち帰ったら家族が大喜びでした。大きなトランク2個を引っぱって和田町駅から坂を上って来て下さいました佐々木孝先生ありがとうございました。

増田ツヤ子

会報「UMU」のバックナンバー

ホームページで会報「UMU」のバックナンバー第11号から20号までを見ることができるようになりました。

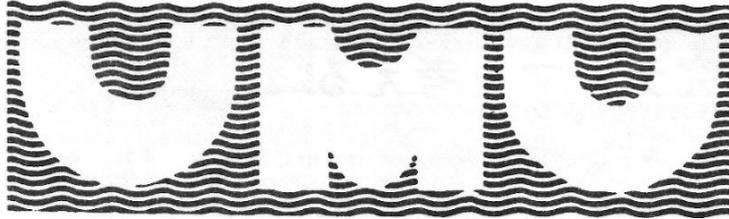
16号～20号は、昨年度の研究大会「第66回造形教育研究大会」の特集となっています。

これを見てもらえれば、研究大会の様子もよくわかりますので、もりあげる会の研究大会に参加されたことがない皆さんはぜひご覧になってください。

ホームページのメニューから「会報」をクリックしてください。

会報「UMU」のページにぽっかりと穴が開きました。
みなさんからの情報提供や投稿をお待ちしていま～す。





<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 03. 10 第37号

研修をさらに実のあるものに

「ワンコイン研修会」から「わくわく研修会」へと名称が変わったもりあげる会の研修会も、月例会と合わせたことで、月1回定期的に行えています。研修の中で、様々な活動を体験したり紹介してもらったりして、「楽しそう！」「子どもたちも喜びそう」「今度やってみよう」と思えることが、研修の素晴らしい成果です。参加した人が喜んでくれて、是非実践してみたいと感じてもらえれば、研修を企画している側としてはとても嬉しいことです。

ではちょっと欲張って、その研修をさらに実のあるものにするを考えてみたらどうでしょう。次のようなことを意識しながら活動を体験してみたらどうなるのでしょうか。「この活動の何が子どもたちにとって楽しいのだろうか？」「この活動を通して、子どもたちの何が育っているのだろうか？」「もっと楽しく活動できる工夫はないだろうか？」

2月の佐々木先生が紹介してくださった活動を例に、上記のようなことを考えてみましょう。(2月の研修で行った「わたしのやきそば(見立てやなりきりから)」の活動は、この会報でも紹介しましたので研修に参加していない方もイメージできるかと思います)

まず大きな黒い紙が目の前に登場しました。子どもたちにとって4つ切りサイズの紙はとても大きく感じられます。それが真っ黒い紙なので、それだけでもワクワクするかもしれません。そこに、白い絵の具で「鉄板をかきましよう」と。黒い紙に白い筆の線。これも子どもたちの心を刺激しますよね。鉄板を知らない子もいるかもしれません。フライパンみたいな形を描く子もいるかもしれません。こ



こは、子どもの実態に応じて先生が言葉や投げかけを工夫するところでしょう…。すると、なんという事でしょう、白い絵の具で形を描いてみると、黒い紙の上にちゃんと鉄板が表れます。何かを焼くことができそうな気がしてきます。これが見立てですね。ここにクレヨンを使って焼きそばをつくっていくのですが、その前に、白い横長の画用紙が出てきました。好きなシールを選んでその四隅に貼ります。「シールからシールにクレヨンの線で結んでみよう」と声をかけます。シールからシールへ子どもたちは緊張感を持ってクレヨンを滑らせます。「どうやって結んでもいいよ」の声掛けで、子どもたちの線は自由に動き始めます。これが、クレヨンの焼きそばづくりの伏線になっているのですね。何が伏線かという、ここで、クレヨンで線をかき経験をすることにより、次の焼きそばづくりで安心してのびのびとクレヨンで描けるようにしているのです。さらに、その白い紙を丸めて筒状の帽子に。なんとコックさんの帽子です。しかも、一人一人みんな違う模様が描かれた帽子です。



子どもたちの見立てとなりきりは完璧で、もうすっかりコックさんです。大きな鉄板を前に、クレヨンで大きくのびのびと焼きそばをつくっていくでしょう。大きな黒い紙に白の絵の具でつくる鉄板。クレヨンに慣れることも意識した活動でコックさんの帽子を手作りする。子どもたちに身近な焼きそばづくりを通して子どもたちが楽しんでいるのびのびとクレヨンで線描する。これらのどれもがこの活動を子どもたちが楽しく自ら進めていくための仕掛けや工夫です。



そこには、「クレヨンで表すことへの抵抗や不安感を取り払う」とか「クレヨンでのびのび表す心地よさや喜びを感じられるようにする」など、子どもの育ちも見据えて活動を考えていると私には思えます。

どうでしょうか。「この活動の何が子どもたちにとって楽しいのだろう?」「この活動を通して、子どもたちの何が育っているのだろう?」「もっと楽しく活動できる工夫はないだろうか?」ということをちょっと頭に入れておくだけで、

研修で体験した活動が、いかにいろいろ考えられているかが見えてくると思います。

すると、今度は自分が子どもたちと造形活動をする際に、もっと子どもたちがワクワクドキドキ、目を輝かせて楽しく取り組めるかを一生懸命考えるようになり、考えることが楽しくなります。

研修を通して、自分も楽しみながら、子どもたちともっともっと楽しく活動することを考えられるようになれば最高ですね。

宮川友二郎

つい最近、以前私が勤務していた附属横浜小学校同窓会のブログに記事を書く機会があり、当時のことを思い出しながら資料や写真を見返していたら、子どもたちの懐かしい写真が見つかり、楽しかった造形活動の様子が思い出されました。

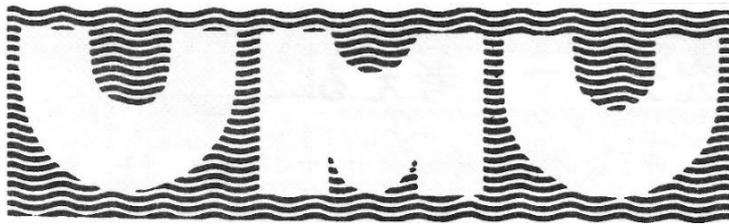
それは、校舎の建て替えの時のことでした。附属横浜小学校の以前の校舎は、神奈川女子師範学校の校舎が一部残っている歴史ある重厚な建物で、小学校とはとても思えない造りの正面玄関があり、そこから入ると玄関ホールとその先に繋がる廊下の高い天井、かなり威圧感のある圧倒される建物でした。

新たに校舎を建て、その古い校舎は全て解体されてしまうのでした。建設のため学校敷地内の木がたくさん伐採されました。その際に、伐採した木を1mぐらいの丸太に切って積み上げておいてもらいました。その大量の丸太を子どもたちと協力して屋上まで運びあげ、その丸太を組んで縄で縛り、家というか小屋というか秘密の隠れ家のようなものをグループで作り上げる活動を始めました。丸太でいかだをつくらしてみたいという声も上がり、丸太を組んだいかだをプールで浮かべてみたりもしました。最後には、みんなで大きな家をつくりたいとなり、全員が入れるくらいの大きな家の骨組みまでできたのですが、その後、解体と共に未完成の状態で校舎と共に残念ながら壊れてしまった記憶があります。



また、もう使わなくなって解体されるのを待つばかりの教室の床にグループごとに思い出の絵を描きました。解体の前に絵を描いた床を剥がしてもらい、どこかに保管したはずだったのですが、その後どうなったのか思い出せないままです。どちらも、残念ながら活動は戻すほみとなってしまいましたが、楽しかった思い出は今でもずっと残っていました。

宮川友二郎



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 03. 27 第 38 号

3月の「わくわく研修会」報告

3月25日(土)横浜の相鉄線和田町駅近くの「三丁目こども園」を会場に研修会を行いました。

当日の参加者は18名。初めて参加された方も4名いらっしゃって。研修会がどんどん広まっていくのが嬉しい限りです。

今回の研修は講師無し。だから教えてもらうことはありません。活動を通して気付き、見つけ、考えながら自ら学んでいく研修会です。講師の代わりに、進行役としてのファシリテーターがいますので、「みんなで凸凹さがしをしよう」の活動は楽しくスムーズに進んでいきました。

持ち寄ったでこぼこのある小物や段ボール、木の葉などの上に紙を置いてクレヨンや色鉛筆などで凸凹を写し取っていきます。外にも出てもっともっと動いて凸凹さがしをしたかったのですが、あいにくの雨模様で部屋の中だけの活動になってしまいました。そんな中でも、みなさん夢中になって活動していました。

造形活動ってやっぱりいいですね。近くで活動している人のつくったものや表現したのが見えるので、それを通して自然と会話が生まれてきます。「すごいね」「きれい!」「おもしろい」「どうやってやったの」とちょっとした言葉のやり取りからコミュニケーションが生まれ、今日初めてあった人ともいつの間にか普通におしゃべりをしています。しかも、そのおしゃべりは人の良いところを見つけたり、認めたり、自分が褒められたり、驚きがあったり、喜びがあったりと、全てが楽しい会話なんです。

楽しい気持ちになると、自分から活動を進めます。自ら動き出すと、いろいろなことが見えてきてたくさんの発見があります。自分のよさをたくさん発揮できます。今回の研修は「楽しい」がキーワードでした。

「この活動の何が、どこが子どもたちには楽しいのだろう?」「子どもたちが楽しくこの活動を進めるにはどんな工夫があるだろうか」この2つを考えながら、研修では活動を進めていきました。

活動の様子については、下の写真と裏面の参加者の感想から想像してみてください。



3月「わくわく研修会」参加者の感想

○今日は、わくわく研修会に参加させていただきありがとうございました。

みなさんのアイデア参考になりました。思いっきり好きなように型どりしたり絵を見立てたりして、楽しい時間となりました。教えることが大切なのではなく、子どもたちが豊かな体験を通して自ら気づき、学ぶことが大切なのだと、勉強になりました。そのためには、指導者の準備もしっかりしつつ、何かでこぼこのものがあるかなと発見する機会をたくさん与えることが大切だと思いました。

○本日は夢中になって取り組む素敵な時間を過ごせました。毎回参加するたびに、感じ方の違い、楽しみ方の違い等おもしろく、これからの保育を考えるヒントとなります。気持ちの余裕があると、もっとこの会を楽しめると思いますが、毎日の生活に必死で・・・(苦笑)

○「造形」というと、どうしてもつくるということに終始してしまいがちですが、「子どもの教育」という視点に立ち、もっと広い、活動全てがそこにつながっていくということが、この研修に参加するたびに実感されます。ぜひ、若い保育者たち（うちの先生たちも！！）に、この経験を通して、これを生かして（直接でなくても、ここの持ち方とか活動のとらえ方とか…）成長して欲しいと思います。

○久しぶりに自分自身が夢中になって作品づくりをしました。紙いっぱい色を置いていくこと自体が楽しかったです。個別支援級の子どもたちは細かい作業が苦手な子も多いため、いろいろな素材や画材を準備してあり、試すことができました。（準備の大切さも感じました）

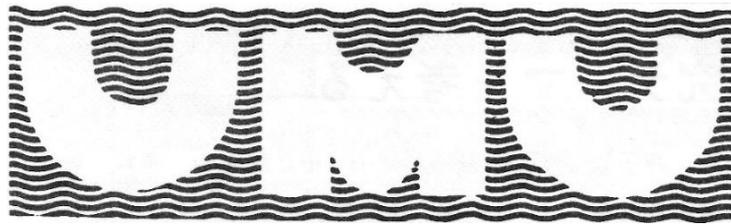
○今回の研修に参加させていただきありがとうございました。身近なものでこんなにもたくさんの表現ができる楽しさを感じることができました。子どもたちとやるうえでは、子ども自身が見つけられるもののほうが新鮮で楽しいと思うので、子どもたちと一緒にものを探すことをやってみたいと思います。参加していたみなさんと様々なコミュニケーションをとりながら表現する楽しさを味わうことができました。今後の保育につなげて、子どもたちの可能性を引き出せるよう頑張っていこうと思います。次回の研修も楽しみにしています。

○今回の「フロッタージュ」という表現方法を通して、様々な発見を楽しむことができました。色の組み合わせ方によって全く違うものになることや同じ色でも素材によって違うこと、これらを組み合わせることで発見できることが無限に広がっていくことがおもしろかったです。子どもたちの好奇心をくすぐり、いろいろな発見をしていく中で疑問や興味などが生まれ、それが活動の広がりへとつながるのではと思いました。また、友だちと行うことでお互いの発見が刺激となり、新たな発見へとつながることもあり、そうした中で仲間を認め合うよさも生まれるのかなと感じました。今回学んだ発見を楽しむこと、そこから生まれる様々な学びを保育につなげるようにしていきたいと思っています。

○なんだか講師の名前がないな？と思い、どうなるのかなと「？」の頭で参加してみました。参加してみたら、なるほど、そういうことかと納得しました。授業を進めるとき、講義形式ではお互いが悲しくなる時があります。特に図工では子どもたちの発想・構想を引き出す役割が必要で、心していきたいなと思いました。今日は同じテーブルの人たちと「見て、見て。」とか「あら、すてき。」とか褒め合ったり認めあったりして、とても楽しく活動できました。4月から図工と格闘する（こんなふうに思うことがだめかな・・・）ことになりませんが、まず楽しみたいです。

1年間楽しんでやっていこうと思っています。





<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 04. 19 第39号

私を感じる『造形教育をもりあげる会』の意味とは

造形教育をもりあげる会副会長 増田ツヤ子

私が、造形教育をもりあげる会と出会ったのは約25年前のことです。大雑把に「造形教育」という言葉がとても興味深かったのです。そして現在「造形教育」が偉大な言葉に思えてきているのです。

幼児教育に携わって50数年、この職について幼児体験が人格形成に最も大切な時期であると学び、私自身もそう信じて日々の保育をしてきました。自分の幼児体験は幼稚園や保育園もない時代で、ここで述べることは何もできませんが、せめて小学校の体験として、感じていたことを話させて頂くと、図画工作はとても苦手で通信簿(あゆみ)がいつも悪かったのです。どう勉強したらよい成績がとれるのか、描く絵も、作る作品も可愛さが全く感じ取れない。作品を認めてもらうこと等一度もなく、おまけに「何これ! 」とドキドキしながら仕上げた作品になる過程など解ってもらえない。先生の励ましやフォローも全く覚えていません。(私は、図画工作は苦手なんだ、絶対に駄目なんだ。と思うようになりました)自分が指導する立場になって、学校教育の根底を考えてみて、それはやはり乳幼児期が大切であり、同時に造形教育の大切さも声を大にして訴えたいです。0歳から始まる造形。柔らかい紙をぐちゃと握る赤ちゃん、みるくやスープを手でびちゃびちゃとし、おまけにテーブルにぬたぐりをする。0歳から1歳にかけて(個人差あり)手づかみで食べる。その様子に「美味しいね。上手! 上手! 」と声をかけてあげる。この全てが心地よく造形につながっていく。物心つく前から、心地よく行動できるように、その子に寄り添い、今の気持ちを最大にもりあげていく事の大切さが乳児から当てはまると思わずにはいられません。そう言う意味からも、67年前に「造形教育をもりあげる会」と名前を付けられた小関先生の偉大さを改めて評価させて頂きたいです。



リレー形式でみなさんの声を

この「会報 (UMU)」もおかげさまで多くの会員の方に読んでもらえるようになりました。そこで、いろいろな方々の造形教育への思いを語ってもらいたいと思い、リレー形式で投稿してもらう企画を考えました。まずは、副会長の増田さんからです。つぎは、増田さんからどなたかを推薦指名してもらい、次々とリレーしていきます。どなたに廻るかわかりません。推薦された方は、快くお引き受けいただき、造形教育への思いを自由に記述していただけたらと思います。これからを楽しみにしてください。

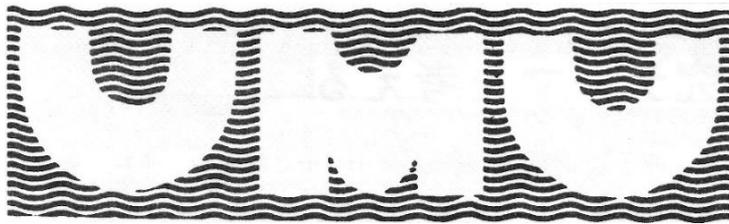
3月の「わくわく研修会」参加者の感想(続き)

- 久しぶりに時間を忘れ、夢中になって楽しむことができました。子どもと同じ気持ちになることができ、活動に生かせそうなことを多く感じることができました。実際にやってみて感じたことを忘れずに授業で行ってみたいと思います。引き出す研修、大変勉強になりました。ご準備他、いろいろとありがとうございました。
- フロッターージュという技法は知っていましたが、クレヨン、クーピー、色鉛筆等、使う道具や力の入れ具合、ぬる角度などいろいろな方法を試すことで、浮き出る絵が大きく変化していくことを初めて実感しました。今保育をしているお子さんたちが、何を使ったら楽しく活動できそうか、どんなものを用意することで“できた！”のやる気を引き出せそうか、考えながら色を出していくことがとても楽しかったです。また、同じ机の他の参加者の方々の活動を見たり、気がついたことを伝え合ったりする中で発想が広がり、新しい発見もできて、一人では得られない学びをたくさんいただきました。
戸外活動の時に、紙と画材を準備して模様さがしを楽しんだり、草花を集めて園でフロッターージュを楽しんだり、いろいろな活動ができそうだと感じました。子どもたちと活動する楽しみができました。大変充実した時間をありがとうございました。
- 初めて参加させていただいたのですが、とっても楽しくて夢中になってしまいました。実際に自分が体験することで、模様が浮き出てくるだけの楽しさではなく、例えば、ものを上からこすった時の感触や音などを知り、それを楽しむことができたので、子どもたちと遊ぶ時の幅が広がったように感じます。いろいろな方たちと一緒に進めることで、自分では気づけなかったことや観点を知ることが多く、とても勉強になりました。
- こするだけで子どもは喜び、発見ができない子はあきらめから、やがてみたてに、するとこの活動の楽しさが分かり、次から次へと発見していくでしょう。白い紙に貼ってあげると活動の意味もよくわかり、子どもは楽しいと感じるでしょう。とても楽しい活動でした。大人は下に置いたものがずれることなくこすることができますが、子どもは??ずれてしまうと楽しくなくなってしまいます。ずれないものを探して楽しくなりました。そして次に色のきれいさを発見していくと活動が長続きすると感じました。
- 講師がいない中、参加者同士で互いに気づき合い、刺激を受け合い、発見し合って学び合っていくという今回の研修は、まさに、自発的、主体的でとても良かったと思います。こすり出しという一つの方法から、様々な表現が生まれていく素晴らしさや楽しさを改めて感じました。どこに興味をもち、どこに楽しさを感じるのかがみんな違っていましたね。まさに、「みんな違ってみんないい！」が溢れていてとても楽しい時間でした。

3月の「わくわく研修会」は講師がいない研修会。もちろん活動の提案をしたり、研修の進行をしたりはしますが、基本はそれぞれが活動を楽しむ中で、考え、発見し、共有することにより学び合う研修会でした。

これからの社会、様々な情報が溢れ、新たな知識が次々と生み出されてくる中で、何かを教えてもらうという受け身の学びではとても追いつきません。自分で情報を選択し、必要な情報を集め、自ら獲得した知識等をもとに自ら考えることにより、自分なりのものの見方や考え方が身に付くような、主体的な学びが大人にも子どもにも必要になってくるでしょう。「教えるから共に学ぶ」を試みた研修会でしたが、参加された方の取り組みが素晴らしく、とてもいい学びの場となりました。

研修の在り方にちょっと自信をもつことができました。みなさんありがとうございました。



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 04. 26 第40号

4月の月例会「運営会議」と「わくわく研修会」報告

4月22日(土) 12:00～15:00 かながわ県立県民サポートセンター 参加人数：15名

「運営会議」では、第67回造形教育研究大会に向け、大会運営について実質的な話し合いが進みました。

その後に行った「わくわく研修会」では、今回は川崎市立中原小学校の吉田ゆかり先生の実践紹介をもとに、参加者みんなで実際に活動しながら授業としての活動や子どもへの関わり方などを楽しく語り合う研修となりました。

~~~~以下「わくわく研修会」の様子です~~~~

「わっかで へんしん」という2年生の活動を紹介していただきました。身近な紙を材料に、それを輪っかにして飾りを付けながら「へんしんする」という活動でした。帯に切った紙を輪っかにするところから始まりますが、その先は、さまざまな「カミワザ」を駆使して思い思いの色や形で好きなように飾って自分が変身していきます。



子どもたちの活動への支援として「造形的な見方・考え方がはたらくような手立て」を具体的に5つ提示し、子どもたちにわかりやすいテーマを示したり、「カミワザ」という紙の様々な表現方法を発想のヒントとしたり、技術的な支援を行ったりといろいろな子に配慮した細かく丁寧な支援が考えられていました。

実践の様子を紹介してもらった後、参加者全員で子どもたちと同じように表現活動をしながらかの楽しさを味わったり、子どもたちの思いや感じ方を想像したりしました。「この活動の何が子どもたちは楽しいのでしょうか」との投げかけに「あまり楽しくなかった！」の声が。よくよく聞いてみると、活動そのものは楽しいのだが、周りのみんながどんどん進めていたり、いろいろなカミワザを使って飾りを付けていたりするのが目に入ると、「やってみたいけどうまくいかないとか、自分のはこれでいいのかな？」と、不安や焦りの気持ちが心のどこかであって、心から楽しいと感じられないとのこと。同じように思っている人は他にもいました。子どもたちの中にも、楽しそうに活動している心の中に、不安や焦りの気持ちがあるかもしれません。そういう子たちにどう寄り添い、どんな手助けがしてあげられるのでしょうか？ 中には、先生が手立てとして示してくれた「カミワザ」を使わずに、自分のやりたい思いで表している子もいるかもしれません。そんな子はもしかしたら「先生はカミワザを上手に使っている子にはすごいね！」と言っているけど、これじゃだめなのかな？」なんて思っちゃっているかも。どの子も「やったあ！」「楽しいな！」と感じられるような活動にしたいけど、そんな手立てや支援って本当に難しいですね。という話題にもなりました。

実際に活動してみたからこそその話のもりあがりですね。この研修の意味はまさにそこにありました。造形教育は活動を通して学びます。私達も常に活動を通して造形教育を考えていきたいですね。





### 「わくわく研修会」参加者の感想

- つくって楽しい子、困る子の話し合い。一人一人をひっぱり上げることの大切さを日頃から思っています。つくること自体の楽しさも味わいました。うまくつくることができないことや、うまくつくだけでなく自分なりに工夫していくことも楽しいことが分かりました。学年や発達段階によつての、ひっぱりだし方、与え方、一人一人の顔が浮かんでくるような今日の研修会でした。楽しい会でした！
- わっかで展開していく小学2年生の授業を実際に行ってみて楽しい時間を過ごすことができました。できなくてもなんとか教わったカミワザを使い、少しでも飾りを付けようとする子の気持ちも分かりました。なかなか考えてつくったり、丸めたり切ったりすることが難しい子でも、授業前のちょっとした時間の取り組みで楽しく活動ができると感じました。つくっている時間にみなさんとお話をしたり、先生方のお話を聞いたりしている時間すべてが、私にとって学びの時間でした。
- 自分でつくって夢中になっていましたが、やはり、子どもの立場で考えていくことの大切さに改めて気づかされた研修会でした。自分でできない子、他の子が褒められて進まない子などの声にならない叫びをしっかりと引き出して支援することが大切ですね。
- 導入の部分からとても丁寧に支援が行われていることがすごく印象的でした。子どもたちが積極的、かつ楽しんで取り組める配慮を見習いたいと思いました。実際につくる中で、何もないところからつくるといことは難しく、ヒントを子どもたちに伝えることの大切さを感じました。ヒントがあることで、次はどのようにしようかなとアイデアもわいてきて楽しかったです。みなさんの感想や意見もとても参考になり、考えさせられることもあり、とても勉強になりました。
- 2年生の題材なので経験がありましたが、お誘いの文書の中の写真がすごかったので、ぜひ参加したいと思いました。お話を聞き、工夫をたくさん知ることができました。また、自分でつくるのも、めげながらも最後までできたのでよかったです。
- つくるのに時間がかかってしまう子の気持ちがよく分かり、支援や声かけを改めて考えさせられました。
- 子どもへの声掛けの仕方、困っている子への声掛け、一人一人個性の違う子たちへの支援について、改めて学ばせていただきました。よい学びとなりました。みなさんの図工への愛 (Love) を感じ、とても楽しい時間でした。
- 今回も素敵な造形体験ができました。子どもたちのワクワクが想像でき、ぜひ現場でも実践してみようと思います。やっていく中での子どもの小さな気づきや大きな気づき、いろいろな気づきに繋がっていることに、こちらが気づいてあげながら進めてみたいと思います。
- いろいろな輪をくっつけていくことでの楽しさを味わいました。周りの方の工夫に刺激を受けながら自分の作品がおもしろくなっていく経験もしました。しかし、そのようにできないときに、焦りを感じたり疲れてしまったりすることもあるのかなと思い、教師の褒め方の難しさも感じたよい研修でした。